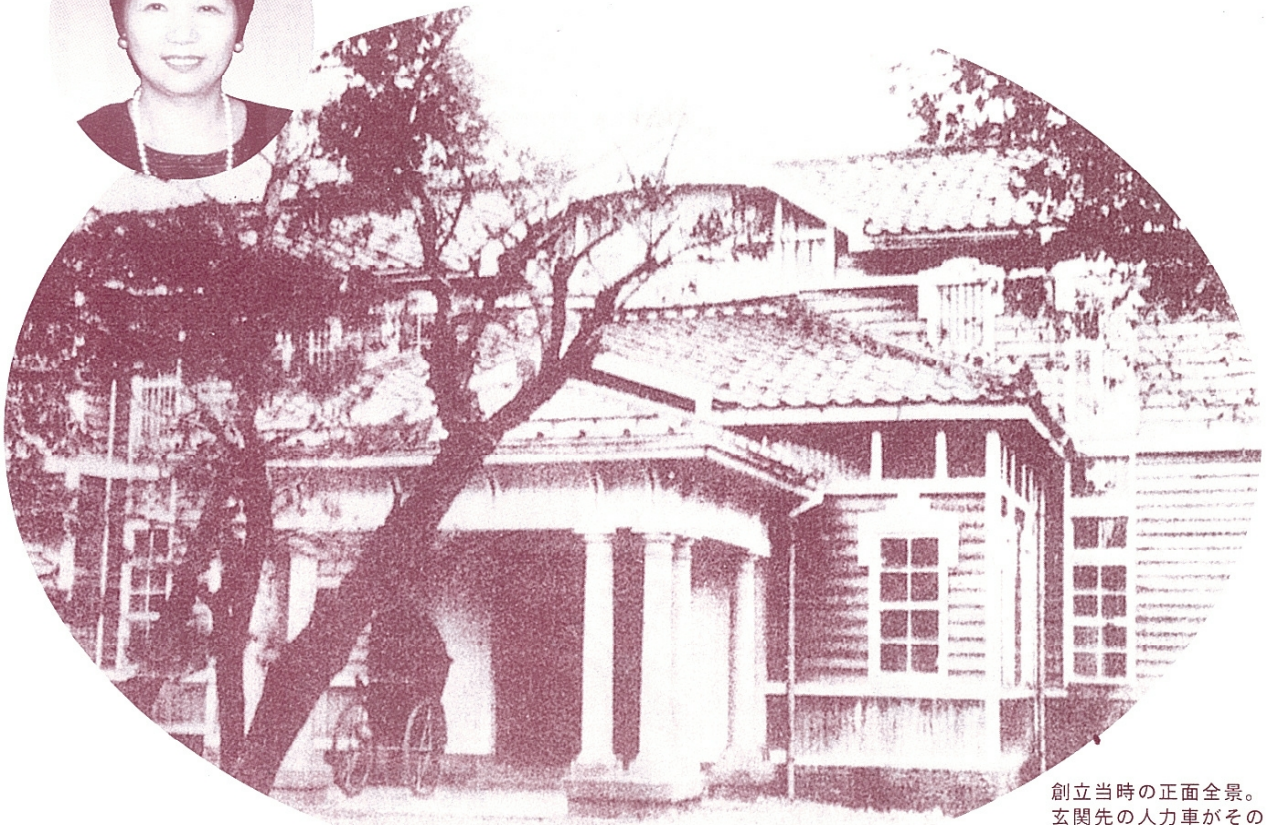


## 共に祝おう創立80周年



創立当時の正面全景。  
玄関先の人力車がその  
時代を語っている

(医)高田西城会 高田西城病院 理事長・院長 川室 優

平成10年11月28日の創立記念日に、素晴らしい増改築工事の竣工式を挙行了たことはいまだに心深く私たちの、胸の内に刻まれています。職員の皆様、地域の皆様、支えて下さる皆様方と共に分かちあった感激の心を決して忘れず、それを常に21世紀の心の病院づくりのエネルギーとしていくことを肝に銘じていきたいと願っております。

新たな出発以来この2年有余の間、職員一同機能分化された新しい病棟で、試行錯誤しながらもよく頑張ってきました。皆様と共に、時に怒り、時には喜び、時には哀しみ、時には楽しみという充実した日々でした。

今日の変化する精神科医療福祉の事柄をすばやくとらえ、瞬時に対応していかなければならない状況の中

で、前院長故川室道隆時代より勤めていただいている方々にとっては、その移ろいに適応することの困難さも多々あったことと思います。しかし、多様、複雑化し、高齢社会を迎えた社会情勢においても、心の病を抱える患者の治療に携わり、人の心を癒す仕事に喜びと誇りを持って対応している姿勢に、リーダーとして心からの感謝の念でいっぱいです。

この2000年には記念すべき創立80周年を迎えますことを、スタッフと共に祝いたいと思います。

ひとりでも多くの患者の心が癒されることが病院の信頼につながります。職員一同が一丸となって「この光をてらす道」がいつもきらきらと輝きを増すように一步一步踏みしめていきましょう。



# 我等の仲間、33人に聞く 創立80周年を迎えるにあたっての抱負



栄養課  
相沢 美紀

職場の先輩方に支えられ、四年が経ちました。初心を忘れず身をひきしめ今後も努力していきたいと思えます。



亜急性病棟  
青木 茂雄

二十一世紀迄あと僅か当院も大きく変わろうとしている。スタッフと共に精神科看護を改革し社会復帰に貢献したい。



生活訓練施設  
池内 智子

利用者のニーズに十分応えることが出来るよう、限らない創造性と豊かな人間性を念頭に活動していきます。



相談リハビリ部  
植木 由実

メンバーさんから教えられることの多い毎日です。チームワークを大切に何事も前向きに取り組みたいです。



老人性痴呆症治療病棟  
上野 純子

歴史ある病院で働くことで看護の向上をめざし、また学ぶことはたくさんありますが一生懸命頑張りたいです。



薬剤部  
内田 稔

八十一年の歴史の上さらなる発展を考えると、最先端の情報を取り入れていく必要がありこれに全力を注ぎたい。



老人性痴呆症治療病棟  
大森 康子

老人の介護は見た目よりとて大変です。でも自分で選んだ仕事なので頑張らなくて行きたいと思いません。



中央療養病棟  
小川 由紀

初心忘れる事なく先輩方を見習い、日々努力し頑張りたいと思います。



急性期病棟  
風間 裕美

一つの節目、そして二十一世紀という新たな節目を迎え、初心にかえり新を吹き締めたいと思えます。



中央療養病棟  
片田ハルノ

古顔になってしまったが、初心を忘れず、皆さんで協力し合っ、山のOの様な爽やかな職場作りに努力したい。



外来  
加藤 章子

忙しさに追われるような日々でも、患者さんの気持ちを少しでも分かっつてあげられるように努力したいと思う。



急性期病棟  
金子ヒデ子

「右」と言えば「右」、「左」と言えば「左」、「首よ」と言われないように、事故を起こさないよう頑張ります。



亜急性期病棟  
後藤由佳子

八十年という歴史を持つこの病院で働けることを誇れる様、自分に出来ることをがんばりたいと思います。



栄養課  
小林 敬子

変えようと思う気持ちが大切だと思えます。立ち止まる事なく、前を向いて進んで行きたいです。



亜急性期病棟  
駒沢 工美

各セクションと連携を取りながら患者様の社会復帰に向けてよい良い病棟作りを努力して行きたいと思えます。



老人性痴呆症治療病棟  
坂田ヨシエ

質の高い保健医療福祉サービスを提供することを目的に「和をもつて尊しとす」「和の道」で頑張りたい。



老人性痴呆症治療病棟  
島田 満富

利用者がサービスを選ぶ時代はすでに始まっており医療福祉に携わる我々に今、求められているのは質の確保であり担うべき役割の大きさを痛感する。



精神療養病棟  
霜鳥 素子

「何事も話し合い。良く話し合い。上手に話し合い」をモットーにチームワークを大切にしていきたいと思えます。



老人性痴呆症治療病棟  
竹田 幸男

これからも八十年という長い歴史を汚さないように常に緊張感を持って患者さんの看護をしていきたいと思えます。



中央療養病棟  
田中 京子

医療変化と共に、「日常業務に医療変化と共に、複雑多様化した医療を職員一人ひとりに迎える事を、ニーズに、応えられる様、努力して行きたいと思えます。



栄養課  
谷口 博子

厨房に今日もありがとうの音が響きます。友に助けられ元気をもらい仕事に和の心向上心を持って頑張っています。



訪問看護ステーション  
中嶋 淑子

白衣に憧れて看護婦になり二十五年。年齢を重ねても未だに今年こそは研鑽の年に努力する様努力したい。



糸魚川診療所  
中村きよ子

患者さんが、気軽に来院して頂く様、そして気持ちを通い合える看護が提供できるよう努力していきたいと思えます。



庶務会計課  
梨本キヨノ

毎日が緊張の電話対応、お客様に喜んでもらえるような、細やかなサービスを心がけたいと思っています。



老人性痴呆症治療病棟  
西脇利恵子

ミレニアムのこの年に八十周年を職員一人ひとりに迎える事を、誇りに思い、少しでもお役に立てるよう頑張ります。



医事課  
長谷川とも子

窓口業務にあたり、患者様へのサービス、挨拶、感謝、工夫の気持ちを日々心掛けていきたいと思えます。



作業療法室  
平原 麗

より良い医療を提供できるよう日々勉強し、笑顔で頑張りたいと思えます。



急性期病棟  
布施 茂

ストレス化社会、高齢化社会の現代院内外を問わず個々とのコミュニケーション作りを努めて行きたいと思えます。



老人性痴呆症治療病棟  
前田 京子

仕事にもようやく慣れ、毎日わたたくし過しているなか人とを大切に看護業務に励みたいと思えます。



中央療養病棟  
宮越 良江

新世紀を迎え、時代を見据え、既成概念にとらわれず、新しい時代に向け病院の進展に期待する。



精神療養病棟  
宮澤 仁

近年の精神医療の変化にもない当病院も近代化されましたが最新医療に遅れる事のないよう頑張ります。



臨床検査室  
横山由美代

八十年の伝統を礎に、IT革命、ハイテクの進む新世紀に向け変えゆく脳細胞を給動員させ頑張りたいと思えます。



精神療養病棟  
吉原 光子

当院に勤めて早十五年たちまち。気持ちをリセットし新しい事もチャレンジできる人になりたいと思えます。



# 合同歓送迎会開催

なごやかに、楽しく、にぎやかに

去る平成12年4月18日にデュオ・セレッソにおいて（医）高田西城会と（医）常心会の合同歓送迎会が行われました。各法人による式典が行われたあと、両法人合同でのレセプションが行われました。



老人性痴呆疾患療養病棟看護婦  
佐藤 紀子

亜急性期病棟看護士  
前田 暁也

相談リハビリ部作業療法士  
藤岡 美穂

相談リハビリ部作業療法士  
飛 亓 良子



## 新人紹介(4名)

●質の高い看護を提供していただける様、毎日沢山のことを学び、笑顔をやさず、がんばっていきたくと思います。

●まだまだ未熟者ですが、個性豊かな先輩の下、老いることなく二十一世紀に向かって、前進していきます。

●向上心をもちながら日々の活動に取り組み、笑顔でがんばりたいと思います。

●常に努力・学ぶことを心掛け、よりよい医療を目指し、笑顔で頑張っていきたいと思ひます。

### シリーズ ②

## セクション紹介

雪ん子保育室は、柔らかな色調の壁紙に、10畳の和室とフローリング、そして解放的なサンルームが設備されています。5月から開設に向けての準備が始まり、6月から新入児を迎えてのスタートとなりました。

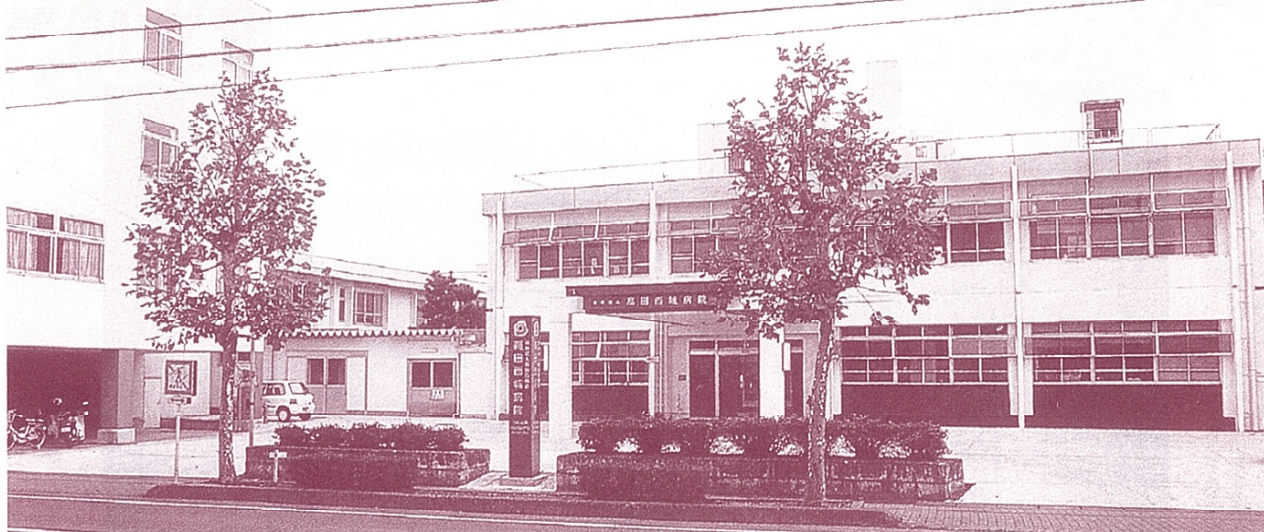
個性豊かな子ども達一人ひとりを、まるごと受けとめながら、ゆったりと家庭的な雰囲気でも過ごせるような保育室にしていきたいと思ひます。ご利用お待ちしております。

## 雪ん子保育室より





## 増改築から2年、病院はどのように変わったか



### 相談リハビリ部より

相談リハビリ部部長  
宮崎 眞也子  
(臨床心理士)

質の高い医療をめざして組織化された当部は、院内外のリハビリ機能を如何に有機的に結びつけるかを常に模索してきました。その過程で各職種の代表によるワーキンググループを設け、文字通り額を寄せ合って話し合いを重ねてきたことは誠に感慨深いものがあります。職種を越えた連携を実行することの困難をみんなですしずつ取り除きながら、やっとここまで来たという思いでした。その中でリハビリ病棟とハウス道芝の交流、きめ細かいカンファレンスやSSTの実践など、スタッフの日常的な努力が着実に結実してきています。こうした試行錯誤を経て鍛えられてきた私達の機動力は、今後も当院のチーム医療のフィールドを売り多しものとする牽引車の役割を果していくものと期待します。患者さんの人生に誠実に向かい合うことを通して、スタッフが互いの専門性を尊重し、適切な情報共有のために連携を築いてきた過程こそ、私達の求めるよりよい精神科医療への礎となるのではないのでしょうか。



### 看護部より

看護部副部長  
亜急性期病棟課長  
荒井 康雄

平成9年8月より始まった増改築工事が、平成10年11月で完成。

竣工式では、大勢の来賓者を招き盛大且つはなやかに祝賀会が行われたことを、今でもはっきりと脳裏に焼き付けております。

この、増改築では、建物だけでなく業務内容も大きく変わったと感じているのは、私だけではないと思います。

まず、建物の外観・内装ともに一新されたことです。精神病院特有の鉄格子が外れ、病棟も広く・明るく・さわやかでモダン的な雰囲気、また設備も充実しました。

病棟業務でも、作業療法士・介護福祉士など色々な職種との連携により、その人の状態・病状に適したケアプランを提供できるようになりました。

現在行っている業務を、今後漫然とこなすのではなく定期的な見直しをしながら、よりよい治療環境・看護サービスが提供できるようなシステム作りを皆様と共に考えて行きたいと思っております。

### 編集後記

当院は、11月28日に創立80周年を迎えます。歴史の重みを感じるとともに、新たな決意と意欲をもって仕事に取り組んでいきたいと思っております。

編集委員会では、紙面の充実を図っていくため、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。